



公共施設の再配置に関連する基本的な情報をお知らせします。

改善のエビデンス

さて、Vol.38号では「エビデンス(証拠)に基づく政策」の大切さに触れさせていただきました。しかし、政策は、立案(plan)して実施(do)すれば終わりというのではなく、結果を評価(check)し、改善(act)していくことも重要です。また、この「評価」も、抽象的なものではなく、「改善」のための「エビデンス」とする必要があります。

そこで、平成29年10月1日から公共施設の使用料が新制度になり、1月からは、ほとんどの施設で新料金が適用されることとなりますが、料金改定の影響が現れているのかどうか、簡単に「評価」をしてみたいと思います。

ひとまず安心

まず、公民館です。公民館の中でも、もっとも利用者が多く、使用料が高い多目的ホール(旧：大会議室)の利用件数¹の変化を比較してみましたが、結果は、下表のとおりです。

公民館名	H29.1 使用料	H29.1 利用件数	H30.1 使用料	H30.1 予約件数	増減率
西公民館	400円/h	74件	800円/h	85件	14.9%
上公民館	400円/h	61件	800円/h	55件	△9.8%
南公民館	600円/h	79件	800円/h	77件	△2.5%
北公民館	600円/h	68件	1,200円/h	50件	△26.5%
大根公民館	400円/h	83件	800円/h	75件	△9.6%
東公民館	400円/h	47件	800円/h	48件	2.1%
鶴巻公民館	400円/h	85件	800円/h	83件	△2.4%
洪沢公民館	600円/h	60件	1,200円/h	48件	△20.0%
本町公民館	600円/h	81件	1,200円/h	78件	△3.7%
南が丘公民館	600円/h	86件	1,200円/h	73件	△15.1%
堀川公民館	600円/h	92件	1,200円/h	80件	△13.0%
合計		816件		752件	△7.8%

西と東の2館で件数は増加していますが、他の9館では減少し、公民館全体では、約8%の減少となっています。しかし、平成30年1月の件数は、現時点での予約状況であり、今後も使用日の5日前まで仮申請(予約)は受けるので、最終的な利用件数は、現在の数字よりも大きくなるでしょう。したがって、改

¹ H30.1の予約件数は、平成29年12月6日現在

定の影響により、利用件数が大きく減るということはなさそうです。

それよりも興味深いのは、新料金が 800 円/h の 6 館では、件数は 1.4% の減少であることに對して、1,200 円/h の 5 館では、15.0% の減少となっていることです。このことから推測できるのは、「早くから予約を行うような定期的な利用者は、1,200 円/h の館を嫌って、800 円/h の館に流れている可能性がある。」ということです。簡易な比較なので、結論付けることはできませんが、今後も注目する必要はありそうです。

次に、従来は原則無料であった利用が、原則有料となった保健福祉センターに着目してみます。

代表的な部屋だけですが、有料化されても、予約件数が前年の使用件数を下回っている部屋はありませんでした。平成 30 年 1 月の利用者の中には、平成 29 年 9 月 30 日までに仮予約を行っているため、1 月までは無料で使える方が含まれています。また、保健福祉センターは、市の事業での利用も多いので、これだけで断定することはできませんが、有料化の影響は大きくないようです。ひとまず安心しました。

部屋名	H29.1 利用件数	H30.1 予約件数	増減率
教養娯楽室	40 件	44 件	10.0%
多目的ホール	57 件	57 件	0.0%
第 1 会議室	29 件	30 件	3.4%
第 4 会議室	19 件	42 件	121.1%
和室	31 件	33 件	6.5%
合計	176 件	206 件	17.0%

今後、30 分単位での使用料支払いを可能としたことによる影響も、「評価」していきたいと思います。また、「はだのっ子応援券」の交付団体登録も 120 件を超えました。こちらの成果についても「評価」しなければなりません。

「値上げされると、活動ができなくなる。」「利用件数が減り、逆に減収になる。」など、使用料見直しの作業を進めている最中は、いろいろな声が届きました。これらの声に対して、平均的な利用回数や利用人数、利用者一人当たりの負担額の変化を「エビデンス」とし、「そうはならないと考えている。」との説明を行ってきました。結果についても、「エビデンス」に基づいてきちんと説明を行う責任があります。

本号を作成するための「エビデンス」を集めるのに要した時間は、30 分ほどです。それは、施設予約システムからデータをエクセル出力できるからです。目の前で声をあげている人の声が、大勢の人の声を代弁しているとは限りません。大勢の人の声がどこにあるのか、客観的に把握できなければ、施策は誤った方向に進む恐れがあります。

皆さんの机のパソコンにも、エクセル君という優秀な部下がいるはずです。少しの手間を惜しまずに、「エビデンス」を集めてみませんか。

今年の発行は、本号で最後になります。1 年間ご愛読ありがとうございました。おかげさまで、月 1 回のペースを上回る 14 回の発行をすることができました。来年もお引き立てのほどよろしくお願いいたします。

つづく

